

環境調査結果のお知らせ

平成21年6月25日
中央漁業指導所・水産試験場

平成21年6月25日午前10時から野見湾奥部の環境調査をしました。
観測の結果は次のとおりでしたので、お知らせします。

概況

湾奥部のプランクトンは珪藻類が優占しており、魚類に有害なプランクトンはごく僅かです。また、天候が不安定なこともあって、水温や塩分が変化しやすい状況となっています。

溶存酸素

溶存酸素濃度は5.1～8.2mg/lでした。前回調査（6月18日、以下同じ）に比べて10m以浅では減少していますが、底層では少し増えています（表1・表2）。

水温

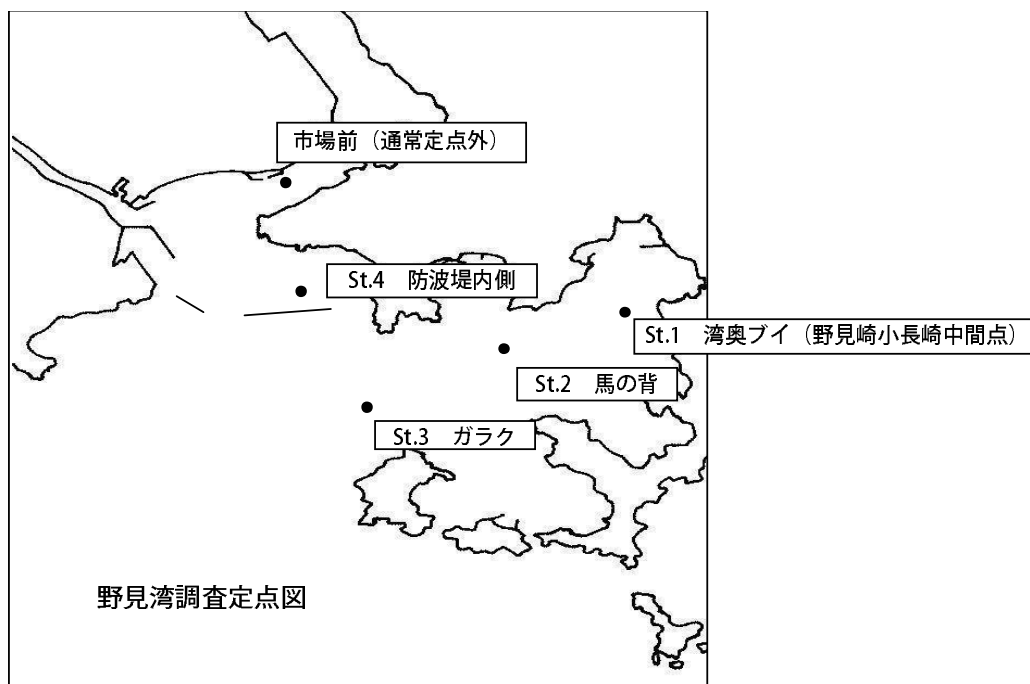
水温は21.1～25.3℃で、表面の水温は25℃を超えました。前回調査に比べて、表層の水温は上がりましたが、底層の水温は僅かに下がっています。先日の大潮時に底層から外海水が差し込んだ影響と考えられます（表3）。

塩分

塩分は33.13～34.29で、前回調査に比べて表層で低下、底層で上昇しています。ここしばらくは梅雨前線の影響を受けやすい状態が続くと考えられます（表4）。

プランクトン

今回調査では、珪藻類が優占しており、魚類に有害なプランクトンはごく僅かでした。プランクトン調査の結果は3ページ目に記載しています。



環境調査結果表（溶存酸素・水温・塩分）

表1 溶存酸素(mg/l)

平成21年6月25日

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~2)	前回調査 (H21.6.18)		市場前
	野見崎と小長崎中間点	馬の背	ガク2番口	東側津浪防波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	6.3	8.2	—	—	7.3	7.5	▲ 0.2	—
2 m	5.9	7.0	—	—	6.5	7.1	▲ 0.7	—
5 m	5.8	6.3	—	—	6.1	6.8	▲ 0.7	—
10m	5.3	5.9	—	—	5.6	6.1	▲ 0.5	—
B-1	5.1	5.7	—	—	5.4	5.2	0.2	—

表2 溶存酸素(ml/l)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~2)	前回調査 (H21.6.18)		市場前
	野見崎と小長崎中間点	馬の背	ガク2番口	東側津浪防波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	4.5	5.8	—	—	5.2	5.3	▲ 0.2	—
2 m	4.2	5.0	—	—	4.6	5.1	▲ 0.5	—
5 m	4.1	4.5	—	—	4.3	4.8	▲ 0.5	—
10m	3.7	4.2	—	—	4.0	4.3	▲ 0.4	—
B-1	3.6	4.0	—	—	3.8	3.7	0.1	—

表3 水温 (°C)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~2)	前回調査 (H21.6.18)		市場前
	野見崎と小長崎中間点	馬の背	ガク2番口	東側津浪防波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	25.3	25.2	—	—	25.3	24.5	0.8	—
2 m	24.9	24.7	—	—	24.8	24.4	0.4	—
5 m	23.0	23.3	—	—	23.1	24.0	▲ 0.8	—
10m	22.1	22.4	—	—	22.3	23.2	▲ 0.9	—
B-1	21.3	21.1	—	—	21.2	22.4	▲ 1.2	—

表4 塩分(ppt)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	湾内平均 (St1~2)	前回調査 (H21.6.18)		市場前
	野見崎と小長崎中間点	馬の背	ガク2番口	東側津浪防波堤内側		湾内平均	前回との差 今回-前回	
0 m	33.45	33.13	—	—	33.29	33.66	▲ 0.37	—
2 m	33.71	33.35	—	—	33.53	33.72	▲ 0.19	—
5 m	34.16	33.94	—	—	34.05	33.84	0.21	—
10m	34.26	34.12	—	—	34.19	33.96	0.23	—
B-1	34.29	34.21	—	—	34.25	34.13	0.12	—

表5 水深・透明度 (m)

調査定点	St.1	St.2	St.3	St.4	市場前
水深(m)	16.5	20.0	—	—	—
透明度(m)	—	—	—	—	—

環境調査結果表（プランクトン）

平成21年6月25日
単位 cells/ml

調査地点・水深	ケラチウム・フルカ	シャットネラ・グロボーサ	優占種	
St.1 湾奥ブイ	0 m	0	0	キートセロス類
	2 m	2	0	//
	5 m	31	0	//
St.2 馬の背	0 m	1	0	キートセロス類
	2 m	2	1	//
	5 m	4	0	//
St.3 ガラク	0 m	—	—	—
	2 m	—	—	—
	5 m	—	—	—
St.4 東側津浪防 波堤内側	0 m	—	—	—
	2 m	—	—	—
	5 m	—	—	—
定点外 市場前	0 m	—	—	—
	2 m	—	—	—
	5 m	—	—	—

プランクトン

湾奥部の優占プランクトンは前回調査と同じく珪藻のキートセロス類でしたが、種類数、現存量とも前回調査時より増加しています。珪藻類は基本的に無害種であり、光合成による酸素供給も期待できますので、珪藻類の適度な増殖は漁場環境的には望ましいと考えられます。

湾奥から馬の背にかけて増殖していたケラチウム・フルカの密度は低下しました。

有害種のシャットネラ・グロボーサが、馬の背漁場で1cells/ml出現しました。本種は、放出した粘液が鰓に詰まって魚を窒息死させることのある有害種ですが、発生状況や漁業被害に関する知見が少ないので今後の動向に注意が必要です。

今回調査では、コクロディニウム・ポリクリコイデスは観測されませんでした。

湾内水温の上昇と降雨による環境変化で、赤潮が発生しやすい時期です。プランクトンの動向（海面の着色、場所、色、濃さ）と養殖魚の様子には注意するようにしてください。また、有害プランクトンのなかには、海面からは見えにくい中層で増殖する種類も多くありますので、航跡まわりの泡立ちや着色にも注意してください。海の状態や養殖魚の異常を感じたときなどは、良く洗ったペットボトルに海水を汲んで、水産試験場か中央漁業指導所までご連絡ください。